

会津地域におけるブルーベリーの品種特性

福島県農業総合センター 会津地域研究所
平成19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - 小果類 - 品種
分類コード 04-13-01000000

2 担当者

斎藤祐一・長谷川一朗・野上紀恵

3 要旨

ブルーベリー31品種(南部ハイブッシュ系、北部ハイブッシュ系、ラビットアイ系)について、5年生樹(結実2年目)における収穫期、果実品質、収量等の品種特性を調査した。

- (1) 収穫期は、南部ハイブッシュ系および北部ハイブッシュ系が6月下旬～8月上旬、ラビットアイ系が8月上中旬から9月上旬であった。7月下旬～8月上旬に収穫期できる品種は少なく、「サンシャインブルー」、「ダロウ」、「エリオット」の3品種だった。
- (2) 収量は、ハイブッシュ系よりラビットアイ系が少なかった。ラビットアイ系は、樹勢が強く樹体生育が旺盛であるが、着果量が少なかった。ハイブッシュ系で最も収量が多かったのは、「ブルーゴールド」で2.6kg/樹に達した。
- (3) 果実品質は、ラビットアイ系および南部ハイブッシュ系は北部ハイブッシュ系に比べて甘味比が高い品種が多かった。一粒重は傾向はみられないが、品種別では「チャンドラー」が4.8gで最も大きかった。食味は、「シャープブルー」、「サンシャインブルー」等の品種が優れた。
- (4) 商品化率は、「オニール」、「サンシャインブルー」、「レイトブルー」が80%以下で低かった。低下の要因は裂果やショウジョウバエ被害で、特にショウジョウバエの被害は7月10日頃から8月10日頃まで認められ、7月25日頃の発生が最も多かった。
- (5) 南部ハイブッシュ系および北部ハイブッシュ系では、6月下旬から8月上旬に収穫できる品種として、「シャープブルー」、「ネルソン」、「チャンドラー」、「ダロウ」の品質が優れた。ラビットアイ系は、8月中旬以降に収穫できる品種として利用価値が高いが、収量性について今後検討を要する。また、一部の品種で、春先に枝先が枯れる等の症状があり、耐寒性については継続検討を要する。

4 その他の資料等

なし